4 システムの管理

この章では、「Management Console」を利用した設定・管理について説明します。

Management Consoleが提供するサービス（→70ページ）....本装置をクライアントマシンから操作する際に使用するWebブラウザベースの「Management Console」が提供する機能について説明しています。

システム管理者のメニュー（→71ページ）..........................Management Consoleに「システム管理者」としてログインしたときに利用できるメニューについて説明しています。

Management Consoleが提供するサービス

ネットワーク上のクライアントマシンからWebブラウザを介して表示されるのが「Management Console」です。Management Consoleから本装置のさまざまな設定の変更や状態の確認ができます。

利用者の権限

Management Consoleは、以下のサービスを提供します。

- **システム管理者用サービス**

  サーバの管理者は、システム管理者と呼ばれ、サーバの完全な管理権限を持ちます。仮想ドメインの追加・削除やSSLの設定、サービスの起動・停止、ネットワークの設定など、さまざまな作業が可能です。

  システム管理者は実ドメインのメンバーであり、ユーザー名は「admin」です。

  サーバでは、ドメイン管理者はドメインごとに1人設定できますが、システム管理者は1人だけです。

  システム管理者が利用できるメニューについては次ページで説明しています。

Management Consoleのセキュリティモード

Management Consoleでは日常的な運用管理のセキュリティを確保するため、Management Consoleに3つのセキュリティモードをサポートしています。

- **レベル0（なし）**

  パスワード認証も暗号化も無しでManagment Consoleを使用することができます。

  危険ですので、このモードはデモや評価の場合のみにご使用ください。

- **レベル1（パスワード）**

  パスワード認証による利用者チェックを行います。ただし、パスワードや設定情報は暗号化されません。

- **レベル2（パスワード + SSL）**

  パスワード認証に加えて、パスワードや設定情報をSSLで暗号化して送受信します。自己署名証明書を用いていますので、ブラウザでアクセスする際に警告ダイアログボックスが表示されますが、[はい]などをクリックしてください。

デフォルトの設定では、「レベル2」となっています。セキュリティレベルを変更する場合は、Management Console画面の[Management Console]アイコンをクリックして設定を変更してください。また、同画面で操作可能ホストを設定することにより、さらに高いレベルのセキュリティを保つことができます。

システム管理者のメニュー

システム管理者が利用できるさまざまなサービスの設定や操作方法などを説明します。

Management Consoleへのログイン

システム管理者は、Management Consoleを利用することにより、クライアント側のブラウザからネットワークを介してManagement Consoleのあらゆるサービスを簡単な操作で一元的に管理することができます。以下に各セキュリティモードにおけるアクセス手順を示します。

重要

- **Management Consoleへのアクセスには、プロキシを経由させないでください。**
- **レベル2では、HTTPSプロトコル、ポート番号50453を使用します。**

レベル0の場合

1. クライアント側のブラウザを起動する。
2. URL入力欄に「http://<本装置に割り当てたIPアドレスまたはFQDN>:50090/」と入力する。
3. [Management Console]画面で、[システム管理者ログイン]をクリックする。

重要

危険ですので、このモードはデモや評価の場合のみにご使用ください。

レベル1の場合

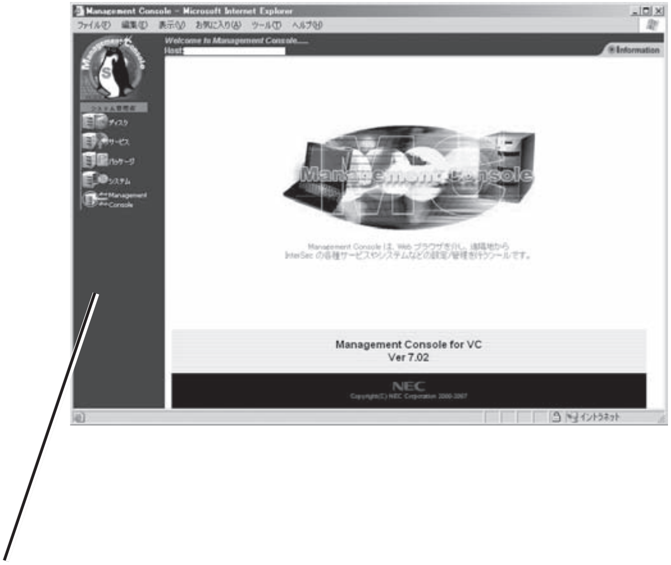
1. クライアント側のブラウザを起動する。
2. URL入力欄に「http://<本装置に割り当てたIPアドレスまたはFQDN>:50090/」と入力する。
3. [Management Console]画面で、[システム管理者ログイン]をクリックする。
4. ユーザー名とパスワードの入力を要求されたら、ユーザー名には「admin」、パスワードにはセットアップ時に指定した管理者パスワードを入力する。

レベル2の場合

1. クライアント側のブラウザを起動する。
2. URL入力欄に「https://<本装置に割り当てたIPアドレスまたはFQDN>:50453/」と入力する。
3. 警告ダイアログボックスが表示されたら、[はい]などをクリックして進む。
4. [Management Console]画面で、[システム管理者ログイン]をクリックする。
5. ユーザー名とパスワードの入力を要求されたら、ユーザー名には「admin」、パスワードにはセットアップ時に指定した管理者パスワードを入力する。

Management Consoleにログインできたら、次に示す画面が表示されます。

システム管理者用トップページ



ブラウザ上から設定した項目(アイコン)をクリックすると、
それぞれの設定画面に移動することができる。

【Management Consoleの画面構成】

■ システム管理者用トップページ

- ディスク*
- サービス
- パッケージ*
- システム
- Management Console

  * 本書では説明していません。Management Consoleのオンラインヘルプを参照して操作してください。

重要

- **初回ログイン時は、自動的にドメイン情報の初期化が行われます。初期化終了後に本装置が再起動されますので、画面の指示に従ってしばらく待った後、そのまま操作を再開してください。**
- **再起動が完了するまでは、画面(アイコンなど)を操作したり、ブラウザを終了させたりしないように注意してください。**
- **通常の操作においても、操作に対する応答が確実に返ってきた後に次の操作を行うようにしてください。応答が返る前に他の画面(アイコンなど)を操作したり、ブラウザを終了させたりしないように注意してください。**

サービス

システム管理者は、Management Consoleからファイル転送(vsftpd)、Windowsファイル共有(smbd)、ネットワーク管理エージェント(snmpd)といったサービスの設定ができます(設定項目の詳細については、画面上の[ヘルプ]をクリックしオンラインヘルプを参照してください。)





サービスを停止する。

サービスを起動、または再起動する。

システム起動時に、そのサービスを自動的に起動するかどうかを示す。変更する場合は選択肢を変更して[設定]をクリックする。
現在の状態が常に起動時の状態として設定されているものについては、変更ができないようになっている。

出荷時の設定では、各サービスの状態は以下のようになっています。必要に応じて設定を変更してください。

サービス名	状態	サービス名	状態
ネームサーバ(named)	停止	ネットワーク管理エージェント(snmpd)	起動
ファイル転送(vsftpd)	停止	リモートシェル(sshd)	停止
UNIXファイル共有(nfsd)	停止	リモートログイン(telnetd)	停止
Windowsファイル共有(smbd)	停止	ウイルスチェック	起動
時刻調整(ntpd)	停止		

ヒント　運用形態によって異なる場合がありますので、注意してください。

ネームサーバ(named)

ネームサーバ(named)を起動するための設定について操作例を示しながら説明します。

実ドメインを管理するDNSマスタサーバとして運用する場合の操作例

ここでは実ドメインを「realdomain.co.jp」、ホスト名を「host」、IPアドレスを「192.168.1.1」、サブネットマスクを「255.255.255.0」、メールサーバを「host.realdomain.co.jp」(優先度0)と仮定して解説します。お使いになる環境に合わせて読み替えてください。

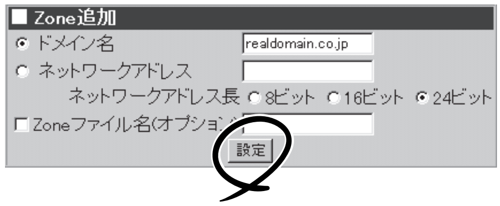
● Zoneファイルの追加

正引きの場合

1. [サービス]の[ネームサーバ(named)]をクリックし、[■ネームサーバの設定]の[操作]欄にある[追加]をクリックする。



2. [■Zone追加]で[ドメイン名]にチェックをし、[realdomain.co.jp]と入力して[設定]をクリックする。



重要

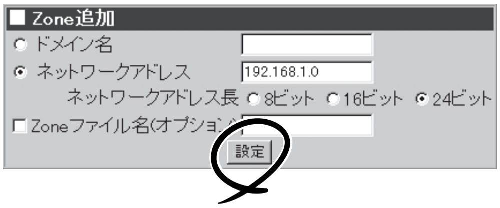
作成されるZoneファイル名を指定したい場合は、[Zoneファイル名(オプション)]にチェックをし、ファイル名を入力してください。通常はファイル名を設定する必要はありません。ファイル名はZone追加後、各Zoneのプロパティからも変更できます。

逆引きの場合

1. [サービス]の[ネームサーバ(named)]をクリックし、[■ネームサーバの設定]の[操作]欄にある[追加]をクリックする。



2. [■Zone追加]で[ネットワークアドレス]にチェックをし、[192.168.1.0]と入力し、[ネットワークアドレス長]を[24ビット]にチェックをして[設定]をクリックする。



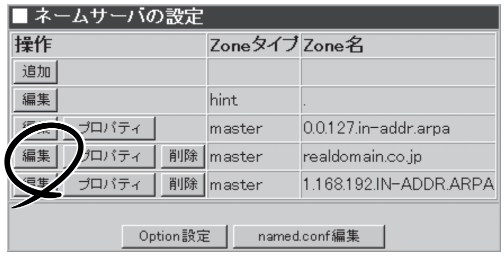
重要

[■Zone追加]からの設定は、CIDRには対応していません。CIDRを使用したい場合は、named.conf編集から直接named.confを編集してください。

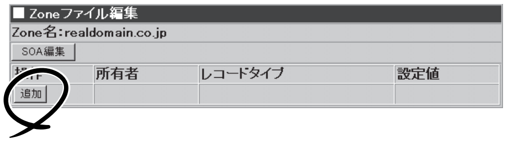
● Zoneファイルの編集

正引きの場合

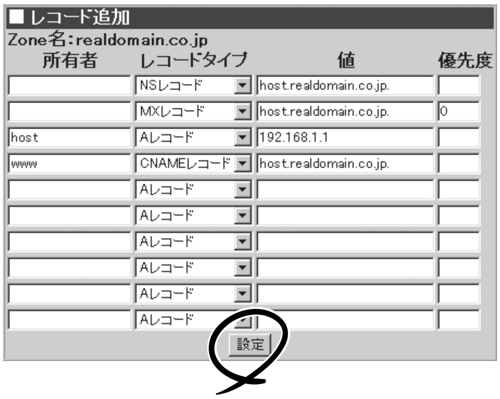
1. [■ネームサーバ(named)]でZone名[realdomain.co.jp]の左にある[編集]をクリックする。



2. [■Zoneファイル編集]で[操作]欄にある[追加]をクリックする。



3. [■レコード追加]で以下のように入力して各レコードの作成を行い、[設定]をクリックする。(優先度は、MXレコードのみの入力になります。)



NSレコード:
レコードタイプ[NSレコード]、
値[host.realdomain.co.jp.]
(所有者は空白)

MXレコード:
レコードタイプ[MXレコード]、
値[host.realdomain.co.jp.]、
優先度[0](所有者は空白)

Aレコード:
所有者[host]、レコードタイプ[Aレコード]、値[192.168.1.1]

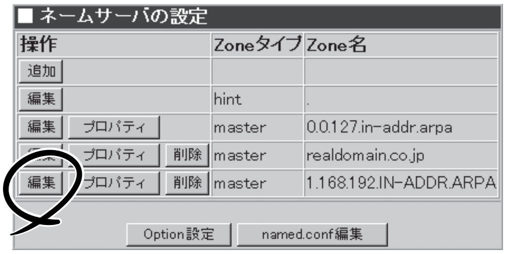
CNAMEレコード:
所有者[www]、レコードタイプ[CNAMEレコード]、値[host.realdomain.co.jp.]

重要

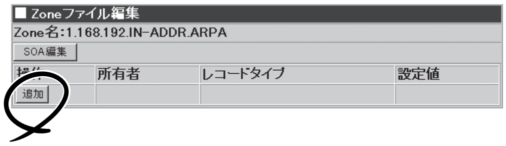
- **NSレコードは、必ず指定してください。**
- **host.realdomain.co.jpはホスト名、www.realdomain.co.jpは別名になります。**

逆引きの場合

1. [■ネームサーバ(named)]でZone名[1.168.192.IN-ADDR.ARPA]の左にある[編集]をクリックする。



2. [■Zoneファイル編集]で[操作]欄にある[追加]をクリックする。



3. [■レコード追加]で以下のように入力してNSレコードとPTRレコードの作成を行い、[設定]をクリックする。

   NSレコード:
   レコードタイプ[NSレコード]、
   値[host.realdomain.co.jp.]

   PTRレコード:
   所有者[1]、
   レコードタイプ[PTRレコード]、
   値[host.realdomain.co.jp.]



重要

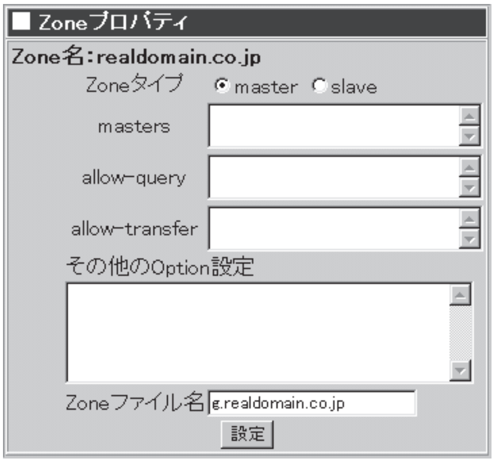
- [■Zoneファイル設定確認・自由設定]で、直接Zoneファイルの編集をすることもできます。その場合は、十分注意して編集してください。DNSの設定を壊したり、ManagementConsoleから編集できなくなる恐れがあります。
- [■Zoneファイル編集]に表示されるレコードは、次のレコードタイプのみです。

  A、PTR、CNAME、NS、MX、HINFO、TXT、WKS

  これら以外のレコードタイプを指定したい場合は、[■Zoneファイル設定確認・自由設定]欄で指定してください。
- FQDN(フルドメイン)で指定する場合は、必ず最後にドット(.)を記述してください。
- masterサーバのZoneファイルの編集が終わったらSOA編集からシリアル番号を増やしてください。
- hintファイルは、通常編集するファイルではないため、[SOA編集]、[レコードの追加]、[編集]、[削除]は表示されません。
- レコードの編集、またSOA編集について、詳しくはManagement Consoleのオンラインヘルプを参照してください。

● Zoneプロパティの編集

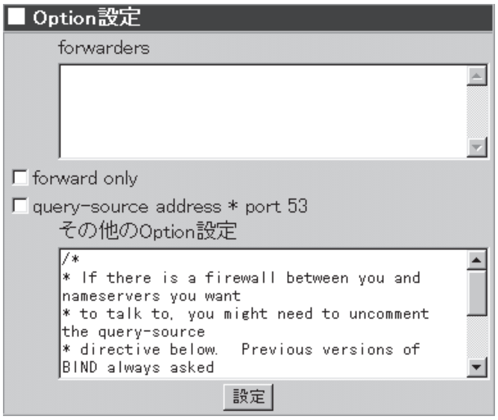
masterとslaveの切り替え、allow-query、allow-transfer等の Optionの設定が行えます。詳しくは、Management Consoleのオンラインヘルプを参照してください。



● Option設定

このDNSサーバが管理するすべてのZoneに対してOptionを設定します。

ここで設定したOptionと各ZoneのプロパティからDNS設定したOptionでそれぞれ異なる設定をした場合には、各Zoneで設定したOpitonが優先されます。詳しくは、Management Consoleのオンラインヘルプを参照してください。



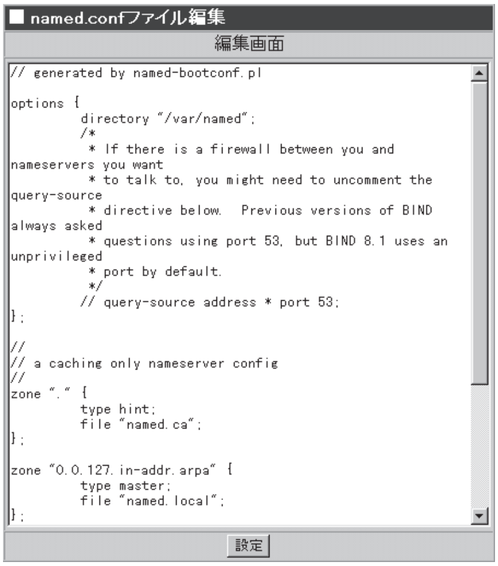
● named.conf編集

named.confファイルの現在の設定内容を表示・編集できます。

直接、named.confファイルを編集する場合、編集が終わったら下の[設定]を押して設定を反映します。

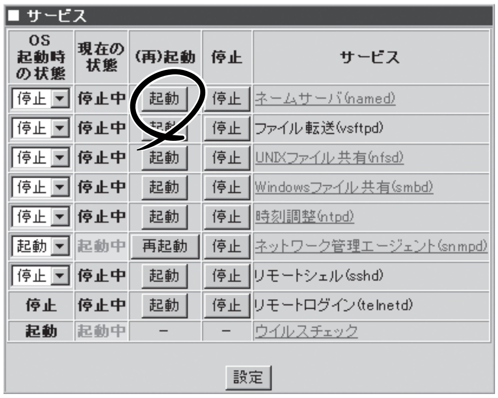
重要

named.confファイルを直接編集する場合は、十分注意して編集してください。DNSの設定を壊したり、ManagementConsoleから編集できなくなるおそれがあります。



● ネームサーバの起動

[システム]メニューの[ネームサーバ(named)]の左にある[起動]をクリックする。



■ サービス

OS起動時の状態	現在の状態	(再)起動	停止	サービス
停止	停止中	起動	停止	ネームサーバ(named)
停止	停止中	起動	停止	ファイル転送(vsftpd)
停止	停止中	起動	停止	UNIXファイル共有(nfsd)
停止	停止中	起動	停止	Windowsファイル共有(smbd)
停止	停止中	起動	停止	時刻調整(ntpd)
起動	起動中	再起動	停止	ネットワーク管理エージェント(snmpd)
停止	停止中	起動	停止	リモートシェル(sshd)
停止	停止中	起動	停止	リモートログイン(telnetd)
起動	起動中	－	－	ウイルスチェック

設定

● ネームサーバの設定

[システム]メニューの[ネームサーバ(named)]の[OS起動時の状態]から[起動]を選択し、[設定]をクリックする。

起動時にネームサーバが動作するように設定します。



■ サービス

OS起動時の状態	現在の状態	(再)起動	停止	サービス
起動	起動中	再起動	停止	ネームサーバ(named)
停止	停止中	起動	停止	ファイル転送(vsftpd)
停止	停止中	起動	停止	UNIXファイル共有(nfsd)
停止	停止中	起動	停止	Windowsファイル共有(smbd)
停止	停止中	起動	停止	時刻調整(ntpd)
起動	起動中	再起動	停止	ネットワーク管理エージェント(snmpd)
停止	停止中	起動	停止	リモートシェル(sshd)
停止	停止中	起動	停止	リモートログイン(telnetd)
起動	起動中	－	－	ウイルスチェック

設定

以上で「host.realdomain.co.jp」、「www.realdomain.co.jp」の名前解決が可能となります。

DNSスレーブサーバとして運用する場合の操作例

新しく追加されたZoneは初期状態ではmasterとして設定されます。slaveサーバを追加したい場合は、masterとして追加した後、そのZoneのプロパティからslaveとして設定し直してください。

1. 「Zoneファイルの追加」を参照して、slaveサーバとなるZoneを追加する。
2. [■ネームサーバ(named)]の[操作]欄にある[プロパティ]をクリックする。
3. [■Zoneプロパティ]の[Zoneタイプ]の[slave]にチェックし、[masters]にmasterを設定しているDNSサーバのIPアドレスを設定する。



重要

slaveとして設定し直した場合、元となるmasterは削除されます。

詳細はオンラインヘルプを参照してください。

ファイル転送(vsftpd)

vsftpdはFTPサービスを提供します。

重要

InterScan VirusWallでファイル転送(FTP)ウイルス検索サービスを使用している場合は本サービスは利用できません。
本サービスを利用する場合は、必ずInterScan VirusWallのファイル転送(FTP)ウイルス検索サービスをオフにしてから、本サービスを起動してください。

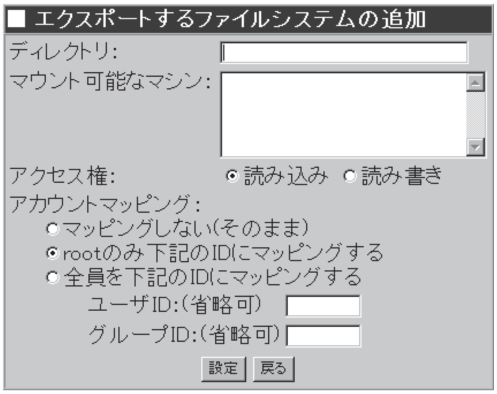
UNIXファイル共有(nfsd)

NFSはNetwork File Systemの略で、Windowsのファイル共有と同様、サーバ上のファイルシステム(ディスク)をクライアントから直接読み書きするための仕組みです。


■ エクスポートするファイルシステムの一覧

操作	ディレクトリ	マウント可能なマシン	アクセス権	アカウントマッピング
追加				
編集 削除	/etc/exports	linuxsbu.np.bs1.fc.nec.co.jp	読み込み	rootのみマッピング

[追加]をクリックすると、[エクスポートするファイルシステムの追加]画面に移行し、エクスポートするファイルシステムの設定を行うことができます。
既存のエクスポート設定に対して[編集]をクリックすると、設定を変更することができます。

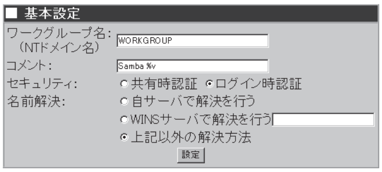


重要

- **NFSを用いると、クライアントがサーバのファイルシステムをローカルのファイルシステムと同様に扱うことができますが、設定内容によってはセキュリティ上の弱点を抱える可能性があります。特に、アカウントマッピングの[マッピングしない(そのまま)]を有効にすることは、必要でない限りすべきではありません。**
- **設定項目の詳細については、画面上の[ヘルプ]をクリックしオンラインヘルプを参照してください。**
- **事前に[システム]→[セキュリティ]→[TCP Wrapper]で、サービスプログラムportmapへのアクセスを許可するホストを追加しておかなければなりません。**

Windowsファイル共有(smbd)

Sambaはそのマシン上のリソース(ユーザーのホームディレクトリやWebディレクトリ)をWindowsクライアントマシンからアクセスできるようにします。
サーバでsmbdを使用しWindowsとのファイル共有を行う場合、Management ConsoleのWindowsファイル共有(smbd)画面にて、ワークグループ名(NTドメイン名)、セキュリティ、名前解決に関する設定ができます。
詳しくはManagement Consoleのオンラインヘルプを参照してください。




■ 共有一覧

操作	共有名	ディレクトリ	コメント
追加			
	ユーザのホームディレクトリ		%U's Home directory
編集 削除	printers	/var/spool/samba	All Printers
編集 削除	private	/home/samba/private	Private space ; one can write one's own files.
編集 削除	public	/home/samba/public	Public space; anyone can write any files.
編集 削除	tmp	/tmp	Read only file space

時刻調整(ntpd)

NTPサーバはネットワーク上で時刻の同期をとる機能を提供します。詳しくはManagement Consoleのオンラインヘルプを参照してください。

重要

システムに設定されている時刻との誤差が大きくなると、NTPサーバから正常に設定することができなくなります。あらかじめ［日付・時刻］で正しい日時を設定の上、NTPサーバをお使いください。

ネットワーク管理エージェント(snmpd)

ネットワーク管理エージェントは、NECのESMPROシリーズやSystemScopeシリーズなどの管理マネージャソフトから、そのマシンを管理する際に必要となるエージェントソフトです。管理マネージャからの情報取得要求に応えたり、トラップメッセージを管理マネージャに送信します。詳しくはManagement Consoleのオンラインヘルプを参照してください。

リモートシェル(sshd)

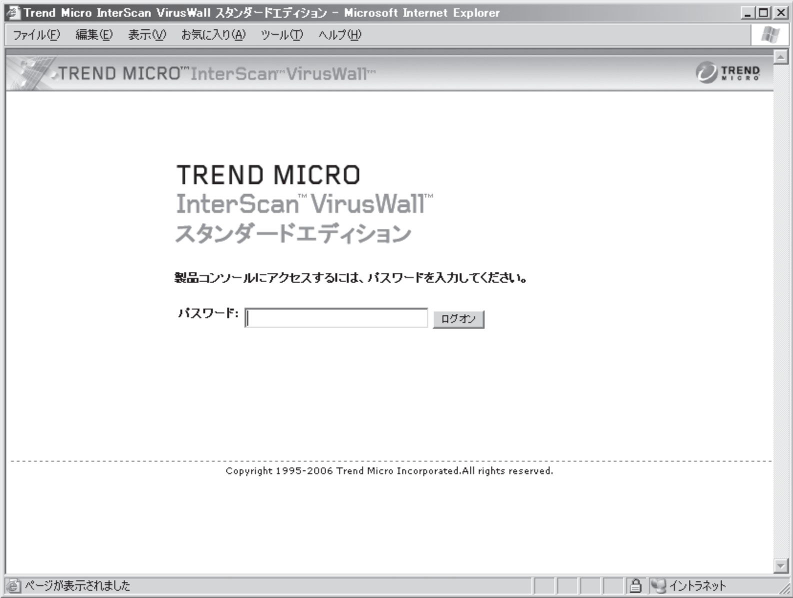
SSHはクライアント・サーバ間の通信内容を暗号化し、安全性の高い通信を提供します。

リモートログイン(telnetd)

TELNETはリモートログインサービスを提供します。

ウイルスチェック

ウイルスチェックのための各種設定を行います。[ウイルスチェック]をクリックすると、InterScan VirusWallの設定画面(InterScanコンソール)が開きます。
設定の詳細については、基本ライセンスに添付の「InterScan VirusWall スタンダードエディション クイックスタートガイド」を参照してください。



システム

Management Console 画面左の[システム]アイコンをクリックすると[システム]画面が表示されます。





システム停止／再起動

[システム]画面の[■ システム停止／再起動]一覧から[システムの停止]、および[システムの再起動]を実行できます。



システムの停止

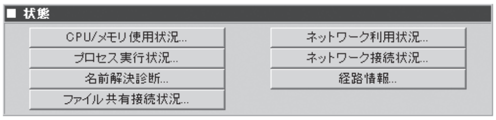
[システムの停止]をクリックすると「システムを停止します。よろしいですか？」とダイアログボックスが表示されるので、停止する場合は[OK]を、停止したくない場合は[キャンセル]をクリックしてください。
[OK]をクリックすると、[キャンセル]と[即停止]が表示されます。停止したくない場合は[キャンセル]を、10秒待たずに停止したい場合は[即停止]をクリックしてください。どのボタンもクリックしなかった場合は、10秒後に終了処理をした後、システムの電源がOFFになります。本体前面のPOWERランプが消灯したことを確認してください。

システムの再起動

[システムの再起動]をクリックすると「システムを再起動します。よろしいですか？」とダイアログボックスが表示されるので、再起動する場合は[OK]を、再起動したくない場合は[キャンセル]をクリックしてください。
[OK]をクリックすると、[キャンセル]と[即再起動]が表示されます。再起動したくない場合は[キャンセル]を、10秒待たずに再起動したい場合は[即再起動]をクリックしてください。どのボタンもクリックしなかった場合は、10秒後に終了処理をした後、システムがいったん停止し、再起動します。

状　態

［システム］画面の「■ 状態」一覧から以下のシステム状態を確認できます。詳しくはManagement Consoleのオンラインヘルプを参照してください。



● **CPU／メモリ使用状況**

メモリの使用状況とCPUの使用状況をグラフと数値で表示します。約10秒ごとに最新の情報に表示が更新されます。

● **プロセス実行状況**

現在実行中のプロセスの一覧を表示します。

● **名前解決診断**

DNSサーバの動作を確認することができます。

● **ファイル共有接続情報**

ファイル共有の状況（共有名、ユーザー、クライアント、プロセスID、接続日時）を各共有名ごとに表示します。約5秒ごとに最新の情報に表示が更新されます。

● **ネットワーク利用状況**

ネットワーク利用状況を各ネットワークインタフェースごとに表示します。約5秒ごとに最新の情報に表示を更新することができます。

● **ネットワーク接続状況**

各ポートごとの接続状況を表示します。約5秒ごとに最新の情報に表示を更新することができます。

● **経路情報**

「相手ホスト:」にホスト名を入力して［表示］をクリックすると、そのホストまでの経路情報を表示します。

その他

［システム］画面の「■ その他」一覧から、以下の機能を利用できます。詳しくはManagement Consoleのオンラインヘルプを参照してください。



● **システム情報**

装置に割り当てたホスト名、およびOSに関する情報が表示されます。

● **ネットワーク**

ネットワーク設定を行うことができます。

● **バックアップ／リストア**

ファイルのバックアップの設定を行います。この後の「バックアップ」、「リストア」も参照してください。

● **システム起動待ち時間**

通常は設定変更の必要はありません。クラスタ構成にする場合に必要に応じて設定してください。

● **ログ管理**

システムのログファイルの表示およびファイルのローテーションの設定を、各ログファイルごとに行うことができます。92ページを参照してください。

● **時刻設定**

システムの時刻を設定できます。

● **セキュリティ**

パケットのフィルタリング、TCP Wrapperの設定を行います。

● **管理者パスワード**

管理者「admin」のパスワードを変更します。各パスワードは6文字以上8文字以下の半角英数文字(半角記号を含む)を指定してください。管理者パスワードは、rootのパスワードと連動しています。

* "システム情報" だけは、［戻る］ボタンがある。他の画面はすべて、右上の［戻る］リンクで戻る。

バックアップ

システムの故障、設定の誤った変更など思わぬトラブルからスムーズに復旧するために定期的にシステムのファイルのバックアップをとっておくことを強く推奨します。



■ バックアップ/リストア一覧

操作	説明	世代数	タイミング
バックアップ 編集 リストア	システム、各種サーバの設定ファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	各種ログファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ディレクトリ指定	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ウイルスチェックシステムの設定ファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ウイルスチェックシステムのログファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ウイルスチェックシステムの隔離ファイル	5	バックアップしない

バックアップしておいたファイルを「リストア」することによってバックアップを作成した時点の状態へシステムを復元することができるようになります。
本装置では、システム内のファイルを以下のグループに分類して、その各グループごとにファイルのバックアップのとり方を制御することができます。

- システム、各種サーバの設定ファイル
- 各種ログファイル
- ディレクトリ指定
- ウイルスチェックシステムの設定ファイル
- ウイルスチェックシステムのログファイル
- ウィルスチェックシステムの隔離ファイル

* バックアップ/リストア一覧の説明だけフォントサイズが異ります。

重要 **ディレクトリ指定のバックアップは他の項目と異なり、実際にフルパスを記述してバックアップをとります。他の項目は、パスは自動的に決まっています。**

各ボタンの機能は次のとおりです。

- **[編集]**

  バックアップ方法や内容、スケジューリングなどを設定します。

- **[バックアップ]**

  あらかじめ [編集]で編集した内容に基づいたバックアップを即実行します。[編集]をクリックしたときに表示される編集画面の[即実行]と同じ機能を持っています。

- **[リストア]**

  あらかじめバックアップしておいた内容を、リストアします。

初期状態では、いずれのグループも「バックアップしない」設定になっています。お客様の環境にあわせて各グループのファイルのバックアップを設定してください。
本装置では各グループに対して「ローカルディスク」と「Samba」の2種類のバックアップ方法を指定することができます。

それぞれの方法には、以下のような特徴があります。

- **ローカルディスク**

  内蔵ハードディスクの別の場所にバックアップをとります。

  ［長所］　ユーザーの設定がほとんど不要で簡単です。

  ［短所］　内蔵ハードディスクがクラッシュすると復元できません。

- Samba

  LANに接続されているWindowsマシンのディスクにバックアップをとります。

  ［長所］　ハードディスクがクラッシュしても復元できます。

  ［短所］　あらかじめWindowsマシンに共有の設定をしておく必要があります。

重要

- **システム、各種サーバの設定ファイルは必ずバックアップを設定してください。**
- **ローカルディスクへのバックアップは、他の方法に比べてリストアできない可能性が高くなります。なるべくSambaでバックアップをとるようにしてください。**

以下に「Samba」を使用したバックアップの方法について説明します。

「Samba」によるバックアップ設定の例

重要

バックアップファイルの中には利用者のメールなどのプライベートな情報やセキュリティに関する情報などが含まれるため、バックアップのためのフォルダ(share)の読み取り、変更の権限などのセキュリティの設定には十分注意してください。（Windows 98/95ではセキュリティの設定ができません。そのためお客様の情報が第三者からアクセスされる可能性があります。）

バックアップ作業のためのユーザーは既存のユーザーでもかまいませんが、以下の説明では「user」というユーザーをあらかじめ「workgroup」内に所属するマシン「winpc」上に用意し、「share」という共有フォルダにバックアップするという前提で説明します。
次の順序で設定します。

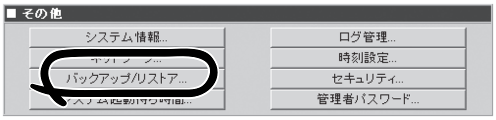
1. Windowsマシンの共有フォルダの作成（OSの説明書やオンラインヘルプを参照してください）
2. システムのバックアップファイルグループの設定
3. バックアップの実行

システムのバックアップファイルグループの設定

ここでは例として[システム、各種サーバの設定ファイル]グループのバックアップの設定手順を説明します(他のグループも操作方法は同じです)。

1. [システム]画面の[■その他]一覧の[バックアップ/リストア]をクリックする。

   バックアップの設定画面が表示されます。

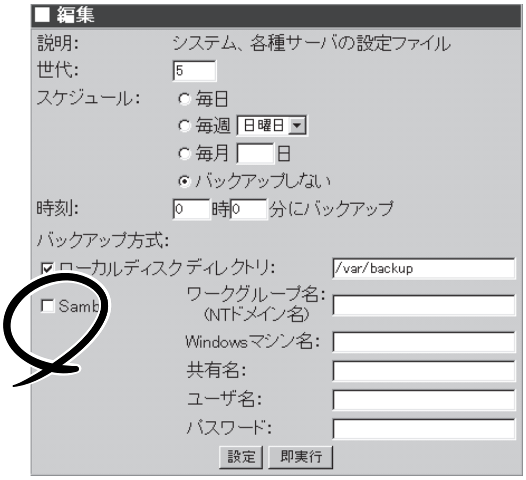


2. 一覧の[システム、各種サーバの設定ファイル]の左側の[編集]をクリックする。

   バックアップ設定の[編集]画面が表示されます。

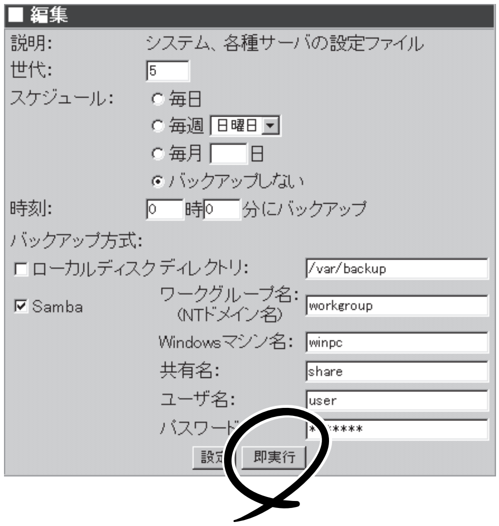


3. [編集]画面のバックアップ方式の[Samba]をクリックして選択する。



4. 「Windowsマシンの共有フォルダの作成」で行った設定に従って以下の項目を入力する。

   - ［ワークグループ名(NTドメイン名)]: workgroup
   - ［Windowsマシン名]: winpc
   - ［共有名]: share
   - ［ユーザ名]: user
   - ［パスワード]: ユーザー「user」のパスワード



5. 正しく設定されていることを確認するため[即実行]をクリックしてバックアップを実行する。

   正しく実行された場合は操作結果通知が表示されます。

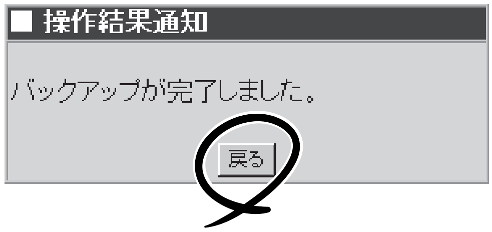
チェック

正しく操作結果通知が表示されない場合はWindowsマシンの共有の設定とバックアップ方式の設定が正しいかどうか確認してください。

ヒント

この[即実行]を使うことで、任意のタイミングで手動でバックアップを行うことができます。

6. ［戻る]をクリックする。



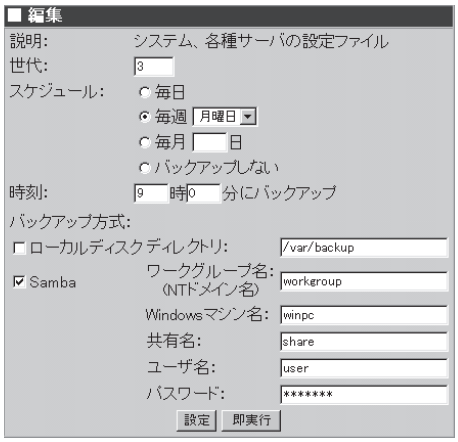
定期的に自動的にバックアップを行うには以下の設定を続けて行ってください。

7. ［編集]画面で[世代]、[スケジュール]、[時刻]を指定する。

   右図の例では[毎週月曜日の朝9:00にバックアップをとる。バックアップファイルは3世代分残す]設定を行う場合を示しています。

   世代

   バックアップファイルをいくつ残すかを指定します。バックアップファイルを保管するディスクの容量と、必要性に応じて指定してください。世代を1にすると、バックアップを実行するたびに前回のバックアップ内容を上書きすることになります。



スケジュール

バックアップを実行する日を指定します。[毎日][毎週][毎月]および[バックアップしない]から選択します。

[毎週]を指定する場合は右側の曜日も選択してください。

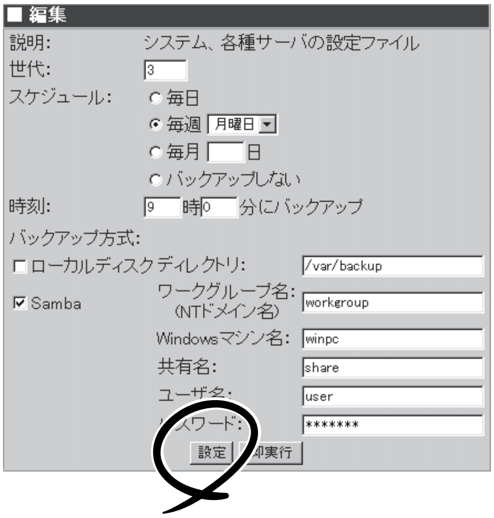
[毎月]を指定する場合は右側のテキストボックスに日付を入力してください

いずれの場合も指定した日付に本体の電源とバックアップ先のマシンの電源が入っていない場合はバックアップできないので注意してください。

時刻

[スケジュール]で指定した日付の何時何分にバックアップを行うかを指定します。24時間制で入力してください。指定した日時にInterScanとバックアップ先のマシンの電源がONになっていない場合はバックアップできないので注意してください。

8. [編集]画面下の[設定]をクリックする。



以上で、定期的に自動的にバックアップを行う設定は完了です。

バックアップの実行

バックアップの処理は「システムのバックアップファイルグループの設定」で指定した日時に自動的に実行されます。指定した日時にInterScanとバックアップ先のマシンの電源がONになっていなければいけません。

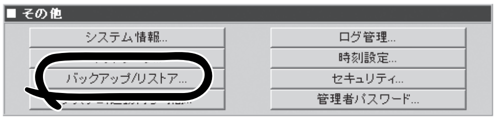
リストア

各バックアップファイルグループごとにバックアップファイルをシステムにリストアすることができます。

ここでは例として[バックアップ手順の例]で設定を行った[システム、各種サーバの設定ファイル]グループのファイルのバックアップファイルをシステムにリストアする際の操作手順の例を説明します。

1. [システム]画面の[■その他]一覧の[バックアップ/リストア]をクリックする。

   バックアップの設定画面が表示されます。



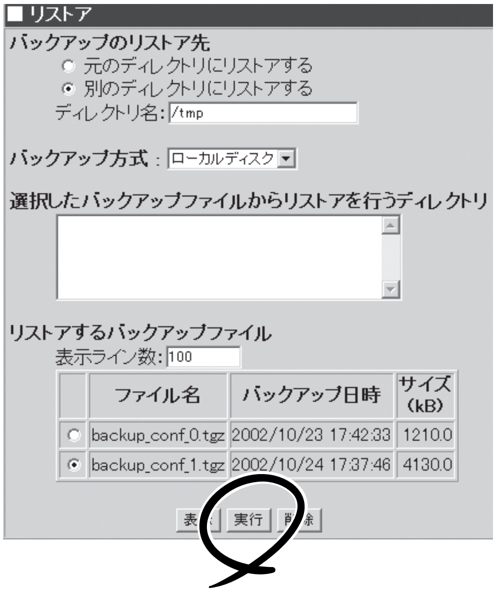
2. 一覧の[システム、各種サーバの設定ファイル]の左側の[リストア]をクリックする。

   リストアするバックアップファイルの一覧が表示されます。

3. [■リストア]で[バックアップのリストア先]、[バックアップ方式]、[リストアするバックアップファイル]を指定し、[実行]をクリックする。

   [リストアするバックアップファイル]は、通常はデフォルトで最も新しいバックアップファイルが選択されています。そのまま実行すれば、最新のバックアップがリストアされます。

4. 「リストアします。よろしいですか？」というダイアログが表示されます。リストアする場合は[OK]を、リストアしない場合は[キャンセル]をクリックしてください。



> ヒント
>
> 選択したバックアップファイルの内容を参照したい場合は、[表示]をクリックしてください。

ログ管理

システムファイルのログファイルの表示やファイルのローテーションの設定を各ログファイルごとに行うことができます。
各ログファイルの[設定]をクリックし、そのログファイルのローテションの設定を行います。
各ログファイルの[表示]をクリックすると、そのログファイルの世代一覧が表示されます。
表示したいものを選択して[表示]をクリックするとログファイルの内容が表示されます。
[全削除]をクリックすると、カレントログファイルを除くすべてのローテートログファイルが削除されます。